

「第2回年次カンファレンス」

(2007年12月8日(土), 於: 東京都・東京大学安田講堂)



1. 開催日時: 2007年12月8日(土)
2. 開催場所: 東京都・東京大学安田講堂
3. プログラム: ※別紙のとおり
4. 参加人数: 約700名

以上

9:40～ 10:00 ご連絡・ご挨拶

10:00～11:00 基調講演

東大病院の改革－医療事故・紛争問題との関係から

演者 東京大学 教授/同医学部附属病院 前病院長 永井 良三 座長 九州大学 前総長 杉岡 洋一

11:00～12:40 特別講演

次の課題：医療倫理・看護倫理問題への対応－治療中止の問題を素材として

座長 東京大学大学院医学系研究科 生命・医学倫理学 特任教授（鳥取環境大学 名誉学長）加藤 尚武

特別講演1 倫理指針の策定とその臨床的意義－がん末期患者に対する治療・看護ガイドラインの策定の可能性

演者 国立保健医療科学院 次長 林 謙治

特別講演2 近年始まった、医療倫理・看護倫理に関する院内コンサルテーション制度・臨床倫理委員会制度と法律家からみたそれらの意義

演者 神戸大学大学院法学研究科 教授 丸山 英二

13:40～16:10 シンポジウム

真の解決に向けた事故対応（初期対応・事故調査・死因分析）とその今後のあり方

座長 東京女子医科大学病院 病院長 永井 厚志

1. 初期対応と院内検証－迅速な事実確定・原因究明あってこそその真の解決

演者 東邦大学医療センター大森病院 医療安全管理部 部長 渡邊 聖

2. 事故調査

(1) 院内での事故調査－患者参加の事故調査と東京女子医大モデルの紹介

演者 事故調査委員会 委員/日本経済新聞社 記者 前村 聡

(2) 「病院群」での事故調査－群馬県病院局の新たな取り組み

演者 群馬県病院局 病院企画監 末松 直美

3. 死因調査

(1) 診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業－現状と今後の展望

演者 厚生労働省 医療安全推進室長 佐原 康之

(2) 死因究明に関する石川県医師会モデル－制度の構築経緯とその現在

演者 石川県医師会 副会長 浮田 俊彦



16:20～17:50 会員報告

座長 東京大学大学院医学系研究科 医療安全管理室講座 准教授 前田 正一

(報告1) 医療事故防止におけるカルテ（医師記録・看護師記録）の院内監査の有用性

(報告2) 裁判で問題となった看護記録の記載内容－過去10年間の判例調査と具体例の紹介

(報告3) 判断能力のない患者への対応－代諾者（キーパーソン）とは誰か？－学説等の動向

(報告4) 医療事故初期対応100選の作成とその意義－注射針の重複使用事例を通して

(報告5) 院長ほか、事務長・看護部長が異状死届出義務違反に問われる可能性はあるか？－関連裁判例からの考察

(総合司会：NTT東日本関東病院 栗原博之)